

学習会「改憲手続法の施行を控え、 どう向き合うか」 山口真美（弁護士）



選した。このことは、改憲は国民の同意を得られなかったことを意味している。

他方、政権の座に就いた民主党は当初は高い支持率だったが、徐々に国民の要求や期待に応えることができなくなってきた。なぜか。後期高齢者問題先送り、

4月26日午後6時30分から豊島区民センターにおいて開かれた東京・9条まつり第5回実行委員会(5頁に関連記事)の第I部で、山口真美弁護士による標記の学習会が行われました。改憲手続法の施行が5月18日に迫ってきたための学習会でした。その要旨は次のとおりです。

政権交代と憲法・ 改憲手続法

09年8月30日の審判で自民政権は歴史的惨敗を喫し、民主連立の政権交代が生まれた。政権交代を生み出した原動力は、1つは新自由主義路線＝小泉構造改革が拡大させた格差と貧困問題に対する国民の怒り、2つは戦後レジェームからの脱却路線に代表される自民政権の改憲路線に対するNOの審判である。01年に誕生した小泉内閣は04年2月に自衛隊をイラクという「戦地」へ初めて派兵し、05年9月郵政選挙で圧勝した自民党は同年11月に新憲法草案発表に踏み切った。続く安倍内閣は「任期中の明文改憲」を唱えて07年5月に改憲手続法を強行成立させ、改憲の危機がかつてなく高まった。しかし、憲法をめぐるこうした経過の中で行われた07年7月参院選で自民党は惨敗し、09年8月総選挙では改憲派議員が軒並み落

労働者派遣法抜本改正拒否、普天間問題立ち往生などにもみるように、「生活第一」は選挙対策でしかなかった。また、自衛隊はインド洋から撤退したがソマリア沖の自衛隊を撤退させようとせず、改憲問題も「慎重かつ活発に論議する」など、自民党と同じく派兵路線に変更はなく改憲の方向を睨んでいる。民主党の本質は、新自由主義路線の推進であり、日米軍事同盟の維持強化にある。

改憲手続法にどう 立ち向かうか

5月18日に同法は施行されるが、その現在の意味は、「いつかやる改憲」へ向けて改憲派が再結集するステージの構築である。しかし、大事なことは、改憲手続法成立阻止のたたかいの到達点を確認しておくこと。

1つは自公と民主の共同修正による成立という構想が頓挫したこと、2つは3項目の附則と18項目もの付帯決議にみるように未完の欠陥法であること、3つは強行成立後は改憲論議が下火となったこと。特に民主党が要求附則と付帯決議は、その後検討されておらず実行できていない。民主党は自分でいったことをその後何もできていない。

また、運動を通して国民が突きつけたハードルは、①最低投

票率、②有料意見広告、③広報協議会と広報、④公務員の政治活動禁止と地位利用、という問題点であった。これらは、いずれも国民権にかかわる重要な問題点であり、②はカネで憲法を買うものでイタリアでは全面禁止されている。③は改憲賛成派2/3で構成する協議会がTVや新聞を利用して改憲ムードを高める、④は公務員にも自由な情報伝達と自由な議論は必要である。憲法改正において重要なことは、国民権がそこでも実現されなければならない、ということにある。

改憲手続法の強行 から空白の3年間

この3年間は、附則と付帯決議について整備する、つまり「欠陥治癒」のための期間であった。しかし、衆参両院に設置された憲法審査会は全く始動せず、国会内で改憲論議もできなかった。その意味は、国民が「欠陥治癒」を求めているからにはほかならない。

廃止・凍結を求めて

改憲手続法を廃止・凍結させる法的方法は簡単である。「改憲手続法は廃止する」の1条だけの法案で廃止できる。5月18日施行となっても「欠陥」が治癒されていないから、改憲手続法は死に体である。4月に発表された読売新聞の世論調査結果の見出しは「憲法論議停滞」であったが、読売は国民の改憲を求める声が冷え込んでいることを嘆いている。九条の会運動がその背景にあることは間違いない。皆さん、改憲手続法の廃止を求めて声をあげていこう。

(島田修一 記)



いま草の根の行動が世界を動かす！ 世界の平和の流れと憲法9条

川田 忠明

(日本平和委員会常任理事)



5月17日行われた東京・9条まつり第6回実行委員会（関連記事6頁）の第1部では、日本平和委員会の川田忠明氏を講師に「核問題と普天間問題」の学習会を行いました。

《核兵器のない世界を！ NPT再検討会議》

「草の根の反核運動が世界を動かす、このことを目の当たりにして感銘を受けた」とNPT再検討会議へのニューヨーク行動について語る川田さん。冒頭からその感動が伝わってきました。そして、パワーポイントを使って現地での行動や発言をリアルに報告していただきました。

最初に、NPT再検討会議を前にして行われたNGO主催・国際平和会議総会での、潘基文国連事務総長の「『核兵器のない世界』は、強い意志があれば達成できるのです。私は、核兵器禁止条約を核保有国に迫りませぬ。政府を動かすのは、みなさんの力が必要です。各国政府に迫りませぬ」と市民との共同

690万余の署名を受け取ったカバクチュランNTP再検討会議議長のエピソード。その議長は、翌3日のNTP再検討会議の開会挨拶で「昨日、私は署名を受け取りました。市民社会の核兵器廃絶への熱望は大きい。私たちは、これに応えなければならぬ」と述べました。そして、国連本部総会議場で署名の提出式。「核兵器廃絶のための交渉を始めよう」一署名と国際政治の流れがピタリと一致しました。

NTP再検討会議は、5月28日に終わります。重要なポイントは、核兵器廃絶プロセスの交渉開始です。世界が注目しています。その中で残念なのは日本政府の態度。外相の参加もなく、存在感がなく恥ずべき姿をさらしています。関連して重大な問題となっているのが核密約問題。被爆国日本の政府がダブルスタンダードをとる限り国際社会の信頼を得ることはできません。

を訴える素晴らしい挨拶の紹介。

つづいて5月2日のタイムズスクエアにあふれる1万5000人の核兵器廃絶の大パレードと一時間以上もパレードの到着を待つ

《「抑止力」のウソと現実、普天間基地問題》

日々脅かされる沖縄県民の平和的生存権。「移設」方針は、完全な失敗です。

政権交代は米軍基地撤去の絶好のチャンス。09年のエクアドル・米軍マンタ基地撤去にみられるように世界各地の政権交代で8割が外国軍の基地撤去が実現されています。

にもかかわらず鳩山政権は、「抑止力」として必要だから、「日米安保」があるからという「理由」で「移設」にしがみついています。

では沖縄にいる海兵隊は「抑止力」か。海兵隊は、介入と侵略のための攻撃部隊であり、「抑止力」肯定論者でも合理化できません。戦争を「抑止」する力は、9条を掲げる交渉。それは道義的にも高い評価を受けます。すでにアジアの平和共同体の発展は、東南アジア友好協力条約(TAC)、ASEAN地域フォーラムの発展にみられるように大きな流れとなっています。武力によらない紛争解決への一例が南沙列島問題です。

一方、その障害となるのが日米軍事同盟です。鳩山政権が本腰でアメリカと交渉できない原因が「日米同盟基軸」「日米安保絶対」にある。「安保絶対」にするな、沖縄・国民世論を力にせよ。

日本共産党代表団が訪米、沖縄県民の総意をはじめて直接聞いた国務省。日米安保破棄政党との関係がはじまりました。いま、沖縄と連帯した国民的運動が極めて重要になっています。

『私たちは、沖縄県民と共に、基地のない平和な沖縄、日本をめざします』(徳之島の署名の言葉)

以上は、感想を含めた講演の概要です。(文責：中山)



生きいき憲法

98歳からのメッセージ

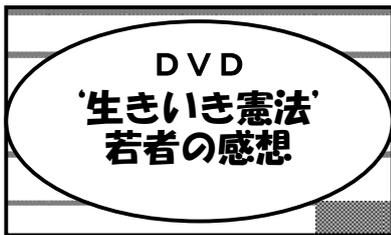
DVD発売・大好評

九条の会東京連絡会発足の賛同人のお一人でもあり、ニュースの題名“生きいき憲法”の名付け親でもある日野原重明さんが、昨年10月24日の1周年のついでに講演された内容を完全収録したDVDをこのたび完成・普及しております。

内容は、若い人から高齢の方、働いている方からさまざまなお仕事をされておられる方々の心を揺り動かすものになっております。

ぜひ、周りの方と一緒にご覧になって、感動を語り合ってください。また、1枚でも多く普及してください。

- 申し込み方などは下記の通りです。
- ◆価格：1枚1000円
10枚以上まとめてご購入の方には1枚無料で進呈します
- ◆申込先=〒101-0061東京都千代田区三崎町3-3-3太陽ビル503
九条の会東京連絡会
- ◆代金・送料は郵便振込口座をご利用ください。
郵便振込口座=00180-6-762960
九条の会東京連絡会
電話03-3239-6716
FAX03-3239-6717



中田 希

「杉並青年9条の会」

日野原さんの話は、とてもわかりやすく力強く、98歳になられても生き生きと平和運動をされている姿に、私も元気ももらいました。

特に印象的だったことは、小学校に出向いて子どもたちに“命の大切さ”、“戦争をしてはいけない”というメッセージを伝える運動をされていることです。子どもたちに話す内容で、“本当に大切なものは目に見えない” “自分の時間をどう使う

かが、自分の命の使い方になる”という言葉が、私の胸に深く残り、考えさせられました。

日本では、9条を変えて戦争できる国にしようという動きが強くなってきているのに対し、世界では今、平和の世論が高まってきていると実感しています。本来ならば、世界に誇れる「平和憲法9条」を持つ私たちは、世界に向けて平和運動の先頭に立つことが大事だと思います。9条は、どの国とも仲良くできる力を持っています。子どもたちに9条をつなげるために、今できることは何かを模索しながら、私も運動を広げていきたいと思いました。

山田 耕平

「杉並青年9条の会」

日野原さんの話で、9・11

事件で亡くなったドイツ青年の妻の話が強く心に残った。夫を殺された女性が、復讐の連鎖を乗り越え、勇気を出して声をあげた事は、大変励まされるものだった。復讐を繰り返せば、戦争はこの世からなくなる。武力では無く、たとえ時間がかかったとしても、話し合いで解決していくことが大切だと改めて感じた。

日本には、戦争を放棄した憲法9条がある。憲法9条は、人間が話し合いで物事を解決する確かな道筋を示している。この憲法が世界でも輝けば、人類が戦争を乗り越える日が来るのではないかと感じる。これからも憲法9条を活かすために、勇気を出し、声をあげていきたいと思った。



東京・9条まつりの会場下見

今年11月13日に大田区産業プラザで開催する「東京・9条まつり」（主催：実行委員会）の準備は着々とすすめられています。なかでも会議室を使つての自主企画、大展示場でのブース出店などの申込みも日ごとに増えています。

実行委員会・九条の会東京連絡会では、この東京・9条まつり成功のため、5月28日昼、大田区産業プラザの大展示場、小展示場などの2回目の現地調査を行いました。

「琉球古舞踊」で何か企画が できないか? などの話しも 「東京9条まつり」第5回実行委員会



去る4月26日(月)の18:30~20:30、エデュカス東京の地下会議室で第5回実行委員会が開かれました。最初に山口真実弁護士による「改憲手続き法の施行を控え、どう向き合うか」という学習講演会を行い、その後、実行委員会の会議に移りました。参加者は39人です。

会議の冒頭、事務局から「まつり実行委員会」の副委員長の紹介がありました。副委員長には大田九条の会の村中哲也さんと東京土建九条の会の瀬田宗市さんに就いていただくことになりました。続けて事務局から現在構想中の企画案についての提案があり、それを受けて全員で自由に討論しました。

そこで出された質問、アイデア、意見は以下のようなものでした。

(1)まず全体像について「企画を主催する場合は、終了時間まで枠いっぱい使わないといけないのですか?」「企画の時間帯の枠組みがよくわかりません」

といった質問が出されました。事務局から「時間枠は最終的には企画申請を集約した段階で確定します。それまでは現在の枠に縛られずに自由に発想して下さい」との説明がありました。

(2)企画に関して「紙芝居をやるか」という話が出ています。「琉球古舞踊(植竹しげ子と仲間たち)で何か企画ができないか、検討中です」「大展示ホールではミニ舞台とブース出店を近づけ過ぎない方がいい」などのアイデアや意見が出されました。また「コンベンションホールの鶯の間にはピアノが常設されると考えていいですか?」との質問も出されました。事務局からは「大展示ホールの配置も現在はまたイメージ図の段階です。余裕をもって配置するつもりでいます」「コンベンションホールにはピアノを常設します」との回答がありました。

(3)また大田九条の会からは、会場の現場の会として、次のような声があがっているとの紹介がありました。「大田九条の会

としてはブースなどの出店をせず、要員スタッフを出してまつりを支えたい」「前日の作業要員も必要なら言ってほしい」「会場はわかりにくい所なので、駅から会場までに案内人を6~10人ぐらい出す必要がある」「スタッフ用の腕章も大田で準備できる」「周辺にレストランがないので、食事をどう提供するか考える必要がある」「4階に厨房があるので、そこに業者を呼んで食事を出したらどうか、という案もある」「都内の九条の会にくまなく宣伝して欲しい。知っている会と知らない会があるのはよろしくない」など。事務局から「様々なアドバイス、ありがとうございます。事務局で検討してお返事します」との回答がありました。

討論の最後に、「4/4の『九条の会関東ブロック交流集会』で快く会場を貸してくれた正則高校に東京連絡会として改めてお礼を申し上げるべきだ」という提案があり、全員一致で承認されました。(平野 健 記)

東京9条まつり 申込み次つぎ 第1次締切の5月末 現在……

「東京・9条まつり」実行委員会は、これまで自主企画(大展示場ブース・ミニ舞台・会議室)への参加申し込みを受け付けてきましたが、第1次締切の5月31日現在の申込み状況は下記の通りです。

☆大展示場ブース: 31
(九条の会)

☆ミニ舞台: 1 (九条の会)

☆会議室: 7 (九条の会)

ブース出店とミニ舞台については第2次募集を近く始めます。

合唱組曲「ぞう列車がやってくる」の準備も 「東京・9条まつり」第6回実行委員会



「東京・9条まつり」第6回実行委員会は5月17日(月)6時30分から豊島区民センター会議室で開かれました。参加者は44人です。恒例の学習は「世界平和の流れと憲法9条」という講演がパワーポイントを駆使して行われました。講師は日本平和委員会の川田忠明常任理事です。5月3日、NPT再検討会議がニューヨークで開かれました。核兵器廃絶に向けた新たな国際的合意に踏み出せるかどうか歴史的な会議です。

川田さんは日本共産党代表団の一員として参加して、帰国したばかり、ホットなお話を聞くことが出来ました。反核運動が世界を動かしつつあることが生きいきと伝わるすばらしい講演でした。(内容別項参照)

次に事務局から「9条まつり」の準備状況について企画構想を中心に報告と提案がありました。前回までの企画構想に加えて西東京九条の会から「憲法講座」と「コーラス」と「小学校単位で九条の会を拡大するための交流会」のセット企画と資金活動に取り組みたいという提案が紹介されました。少ない予算で運

営するので事前の資金活動が望ましいところです。また、「沖縄のうたと三線」「うたごえ喫茶」「うたで知る韓国と日本の歴史」などの新企画が出されていること、スペシャル企画のゲストの交渉をねばり強く重ねるなどより楽しい魅力ある「9条まつり」にするために努力していることが報告されました。

また、(1)この間、コーラス「ぞう列車がやってくる」上演のロコミがひろがりコーラスグループからの自主企画が自薦他薦で上がっていること、(2)ブース企画に関しても企画でまつりに参加するという意義が伝わり急速に申し込みがふえている。(3)締め切りは5月31日。(4)ノミネートされた企画は確定したのではなく6月の企画会議で調整して決めることなどが報告されました。事務局からは「今からでもおそくはないので引き続き積極的な企画応募が要請されました。

会場からは当日の運営に関する意見が多数出ました。

ブース企画の展示パネルを上にも伸ばしたいなどのユニークな提案などが出されましたが、会

場の使用条件にこだわらず相談しながら決めて行くことにしました。前回の大田区九条の会から提案があった、道案内としての協力、弁当の販売などについても6月に拡大事務局を編成して運営会議を開き相談して具体的な協力をおねがいがする。そして、事務局から5月28日に再度会場現地調査を入れることが提案されました。国分寺九条の会はブースでなく会議室にしたいという申し入れがありました。また、「記録ビデオを収録してDVDで発売したらどうか」「日野原さんの講演を是非聞きたい」などいずれも積極的な意見が活発にだされました。

今後の日程については大筋(下記参照)が説明されました。

現在事務局は常時12~13名のボランティアで運営していますが、「まつり」を成功させるためには事務局員を倍増する必要があります。拡大事務局の活動を希望する方は自由に参加できます。事務局から積極的な参加呼びかけがありました。

また、連絡会の旗「生きいき憲法」を造り、5月3日の憲法集会のパレードに初参加、東京新聞に写真入りで大きく報道されたことが報告されました。

最後に日野原DVDは既に600枚を売り、残り400枚を売り、宣伝を強化して早期に完売したいなどの諸報告がありました。

●第7回実行委員会は6月14日(月)豊島区民センターです。

●5月31日企画締め切り

●6月2日企画調整会議

●6月中旬予算会議拡大事務局会議募金活動

●主な企画決定宣伝ポスターチラシ作成

●6月下旬第1回運営委員会

●7月中旬、宣伝と配券開始

詳細は事務局会議で検討して決める。

職場から



大田区の教職員九条の会を作ろうという準備会の動きが始まったのは、2006年の夏休み。それから翌2007年11月9日の正式な結成の日まで、準備会の開催は月1回から2回、延べ22回を重ねました。「九条の会」の9名の方々の呼びかけに賛同し、憲法9条を守ろうという一点で手をつなごうと、お誘いのリーフレットを作り、職場の仲間や準備会主催の勉強会の参加者に手渡ししながら、入会を呼びかけました。**100名の会員で結成の集いを持つ**、これが準備会のまず最初の目標でした。

そして2007年11月、詩人アーサー・ビナードさんの記念講演「世界の中の九条」。会場いっぱい参加者で、結成することができたのです。

私たちの会は、世話人をおき、準備会以降の4年間、学ぶことを中心に、ニュースの発行、学んだことを広げていく冊子の手作り、いろいろな集会、行動への参加、区内の他の九条の会との交流、教職員組合と共同の9の日宣伝行動などの活動に取り組んできました。

講演会

「自衛隊が自衛軍になるとどうなるか」(講師：山田朗氏)

講演内容をパンフレットにまとめ、普及しました。

「内心の自由と日の丸・君が代」(講師：川村佐和氏)

「命に国境はない」(高遠菜穂子さん講演のビデオ視聴)

「貧困と格差から子どもを守れ」(講師：渡辺潤氏)

「中学生の勉強会」の立ち上げ

学ぶことを中心に、学んだことを広げて

大田区教職員九条の会



学習会の様子

準備をされていた方々と出会い、その活動に参加させていただくことができました。

「ここにも戦争があった！大田区平和島」(講師：長沢幸江氏)

長沢さんが監修された冊子「平和という名の土地で」に、300部を超える注文が寄せられたり、その内容が英語の授業で教材料されたりという反響の広がり。

「沖縄・普天間基地を考える」(講師：小泉親司氏)

会員自身の問題提起や教育実践を持ち寄る学習会

「沖縄戦を体験から、事実から学ぶ」

「改憲手続き法案」

「改憲手続き法案STOP!の手引き」ミニミニパンフを手作りし、普及。国会への行動も呼びかけました。

「憲法・平和と戦争—子どもたちとどう学ぶか」

歩いて見る学習会・フィールドワーク

「靖国神社・遊就館」、「大森周辺の戦争遺跡」「池上本門寺

の戦争遺跡」

(案内・歴教協会員で大田区で教えていらした大坪庄吾氏、東海林次男氏)



平和観音像

今、私たちの会の運営は退職教職員の比重が大きくなり、夜遅くまで教育現場で仕事に追われている現職の方の参加をどう広げていくかということが、大事な課題になっています。そのための努力を続けながら、この秋大田で開かれる「東京・9条まつり」に向けて何をすべきかと、額を寄せ合っているところです。大田でお待ちしています！



「生きいき憲法」をかざして 銀座を歩く

九条の会東京連絡会の人びと

九条の会東京連絡会の事務局メンバーは、5月3日に日比谷公会堂で開催された「5・3憲法集会&1万人銀座パレード」に新調した幟をもって参加しました。

この幟は、マスコミ九条の会の畑泰彦さんがデザインし、それに事務局メンバーが「あ~でもある」「こ~でもある」と論議をかさねて作り上げたものです。

デザインを決めたのが4月24日、5月3日の集会に間に合わせようと、業者に頼み込み、ようやく集会当日に間に合わせることができました。

最初は、事務局の皆さんは、黄色地か何かの布地に黒か白地の字で「九条の会東京連絡会」と書いた程度のイメージしかありませんでしたが、畑さんが示したデザインは、いまや東京連絡会のシンボルになっている「生きいき憲法」という文字を生かし、一昨年10月24日の発足集会の際に舞台のバックにつかったデザインをあしらった斬新なものでした。

「生きいき憲法」の言葉と揮毫は、98歳の日野原重明さんが、東京連絡会が昨年2月以降発行し続けているニュースのタイトルに寄せてくださった言葉です。

3日のパレードでは、東京連絡会のメンバーは第5グループの先頭を歩き、多くの九条の会の人たちがその後に参加しましたが、この幟はたくさんの人の目を引きました。とくに銀座・数寄屋橋の交差点では注目を浴びました。翌5月4日の東京新聞・朝刊の社会面に、銀座に行く「生きいき憲法」幟が風をきって歩く姿のカラー写真を掲載していました。

東京連絡会事務局では、憲法に因んだ集会・行動の際にはこの幟をかざして参加していこうと語り合っています。

(柴田桂馬 記)



【写真】数寄屋橋交差点付近

【写真】日比谷公会堂前

